

～薄暮時間帯における交通事故防止～

薄暮時間帯は、例年、交通死亡事故が多く発生しています。
この時間帯は、周囲の視野が徐々に悪くなり、自動車や自転車、歩行者などの発見がお互いに遅れたり、お互いの距離が遠くに感じたり、速度が分かりにくくなるためです。このため自らの存在を周囲に知らせるために

- 自動車の運転者は、前照灯の早め点灯を行う。
- 歩行者や自転車利用者は明るい服装や、反射材・ライトの活用を行う。

ことにより、薄暮時間帯における交通事故防止に努めましょう。

薄暮時間帯における死亡事故の発生状況

- 月別では、**10月から12月にかけて多く**発生しています。
- 日没時刻と重なる**16時台から20時台が最も多く**発生しています。
- **自動車と歩行者**が衝突する事故が多く発生しています。

薄暮時間帯における事故防止対策

- **早めの前照灯の点灯**
薄暮時間帯には、急激に視野が悪くなり、他の車、自転車、歩行者も互いに発見が遅れがちになることが大きな事故要因の一つと考えられます。
しかしながら、運転者の中には、周囲が見えづらくなっても前照灯を点灯せず走行している車両を見かけることがあります。
前照灯を点灯していないと、相手方から見落とされやすく、歩行者や自転車が車の接近に気付かず横断してくる危険性が高まることから、早めの前照灯点灯を行いましょう。
- **ハイビームの活用**
ロービームよりハイビームの方が2倍以上遠くの歩行者や自転車を発見できます。
対向車や先行車がない状況では、ハイビームの活用に努めましょう。
- **速度を落として、周囲の状況に一層の注意**
薄暮時間帯は、自動車と歩行者の事故が多く、特に歩行者が横断中に発生しています。昼間と比較して周囲の視界が悪くなり始めることから、前方左右や周囲の状況に目を配りながら、速度を落として走行しましょう。

歩行者・自転車は反射材用品の活用とライトの点灯を